

区内

# 小学校児童支援専任教諭 中学校生徒指導専任教諭等との打ち合わせ会(分散開催)

毎年7月に区内の小学校・中学校の専任教諭の方との意見交換を実施しています。今年も、昨年度に引き続き、中学校区単位で集まりました。

〈共進中学校区の報告〉

令和5年7月22日(土)各地区の青少年指導員と各校の先生方が共進中学校に集まり、地区での活動と現状の活動報告を共有しました。

今年は徐々に普段の生活に戻りつつあるので、これからの青少年指導員が学校での活動行事等のお手伝いをどのように進めるべきかを話し合う機会を設けることが出来ました。

例えば、防災に関しては子どもたちが地域の一員としてどのように協力し、役割を担うことが出来るかなどを話し合いました。

実際に災害が起きた場合を想定し、中学生を中心に避難場所での誘導等の活動が役割として必要になるのではないかという意見がありました。もちろん防災訓練をした上での話になりますが、日頃から世代に関係なく地域の方々と接する機会を通して青少年の育成や地域の人間関係が育まれればと思いました。

(岡田、斉藤)



対象校…日枝小学校、太田小学校、南太田小学校、共進中学校  
青指担当地区…お三の宮、太田、太田東部、寿東部、堀之内睦町

## 編集後記

長いようで短い夏休みが終わり、子どもたちは楽しい思い出がたくさん出来たことと思います。3年ぶりの制限のない夏休みは格別のものがあったことでしょう。

しかし、毎年夏休みには水の事故が多く発生しています。数年前の夏、娘が日本赤十字社に入社し、日赤水上安全法指導員の資格を取得し、南区内の小学校で海上保安庁と合同で、着衣水泳の講習会を実施しました。その際、海上保安庁が海水浴でのライフジャケット着用を推奨しているという話を聞きました。

30年以上前からシーカヤックを趣味としている私も家族で海水浴をする時も全員でごく当たり前にライフジャケットを着用していました。大人も子どももサイズが合うものを準備することが大切です。

ぜひ、皆さんも海水浴にはライフジャケットを着用するなど家族の安全を考えて、楽しんでいただけたらと思います。

(松尾)



## 編集委員

- 広報部会長
  - 北永田地区 ▶ 加藤 春哉
  - お三の宮地区 ▶ 岡田 圭司
  - 太田地区 ▶ 稲垣 恵子
  - 太田東部地区 ▶ 今井 馨太郎
  - 寿東部地区 ▶ 小林 航大郎
  - 中村地区 ▶ 平野 直子
  - 蒔田地区 ▶ 斉藤 純
  - 井土ヶ谷地区 ▶ 門井 由美子
  - 南永田山王台地区 ▶ 山田 智久
  - 永田みなみ台地区 ▶ 伊東 由和
  - 六ツ川地区 ▶ 森田 裕之博
  - 六ツ川大池地区 ▶ 青木 慶一
  - 本大岡地区 ▶ 内田 正幸
  - 別所地区 ▶ 松尾 英司

- 広報部会担当役員
  - 六ツ川大池地区会長 ▶ 伊東 俊一

編集発行／南区青少年指導員協議会  
事務局／横浜市南区地域振興課内  
TEL 045(341)1238

## ■ 下半期、青指行事予定 ■

- 9月16日 横浜市青少年指導員研修会(西区)
- 11月下旬 神奈川県青少年指導員大会
- 12月3日 南区制80周年記念 第43回ボイス・オブ・ユース(青少年の主張)統一行動キャンペーン
- 1月14日 南区青少年指導員協議会全員研修会
- 1月20日 青少年の健全育成を進める県民大会(海老名)
- 3月10日 横浜市青少年指導員大会

横浜市青少年指導員  
シンボルマーク



# みなみ青指だより

南区青少年指導員協議会

南区青指 🔍 検索



## 令和4年度南区青少年指導員全員研修会

講演



特定非営利活動法人SHIP  
代表 星野 慎二氏  
「多様性を認め自分らしく  
生きられる社会づくり」

令和5年1月15日(日)午後1時より、南区役所に於いて令和4年度の全員研修会を開催しました。新型コロナウイルスの影響もありましたが、参加者は70名を超え、感染症対策をとりながらの開催となりました。そのため今年度は、例年行っている分散会による意見交換会は行わず、講演会のみ行う形となりました。

近年関心が高まっている性的マイノリティやメンタルヘルスをテーマに、NPO法人SHIP代表の星野慎二様より講演をいただきました。

内容は、多様性を認め、自分らしく生きられる社会づくりとして、現在は20人に1人はいるかもしれない性的マイノリティについて、世界の状況や社会意識、環境に対する対応などについて詳しくお話しいただきました。

性的マイノリティとは、女性同性愛者(L)、男性同性愛者(G)、両性愛者(B)、性同一性障害(T)に分類され、総称として

LGBTと呼ばれています。こうした性の多様性に対してどのように受け入れ、対応していくのか、またそうした人々へのメンタルヘルスをどうすればよいのかをお話しいただき、大変参考になりました。

しかし今回のテーマは、私たちにもまだ分からないことがたくさんあり、今後は、どのように対応していくかを考えさせられました。(大川)



南区は12月1日に区制80周年を迎えます。青少年指導員協議会に於いてもボイス・オブ・ユース、各種研修会等の行事を記念行事として開催します。

## 令和5年度 青少年指導員全体研修会

令和5年5月21日(日)、13:30から青指メンバー70人の参加をもって全体研修会が行われました。今回は、公益財団法人よこはまユース事務局次長の大槻繁美氏による、「『遊びの技術』～遊びを通じて子ども達の能力を育むために～」と題する講演がありました。大槻氏は、長年地域に密着して子ども達を育てる活動をされてきた方です。

冒頭、まず全員に対して、左右の指で別々に数字を数えるゲームや、大槻氏とのじゃんけんが最後まで負け続けるかを競うゲームを行うことによって、我々聴衆の心をつかんだ上で本題に入りました。

集団活動は、子どもが自らの限界に挑戦することで、危険に対する予知能力や事故回避能力などを高めることができる体験の場である、と大槻氏は言います。ただ、危険には「リスク」と「ハザード」の二種類があって、「リスク」は子どもたちが危ないことに気づきながらも挑戦し達成感が得られる危険、他方「ハザード」は危険があるとは気づかないワナのような危険であると言います。したがって「ハザード」は深刻な事故へとつながりかねません。

ただ、大事なことは「危ないからやめる」のではなく、子どもたちがチャレンジし自身の成長に繋がる「リスク」を意図的に残し、重大な事故に繋がる「ハザード」を意識して取り除くことです。その上で、大槻氏はいくつかのケーススタディを取り上げて説明して下さいました。以下、その一部を紹介します。

まず、一つ目は、キャンプファイヤーに関するものです。化繊の服は火が移ると危険なため着用しないこと、またトーチ(棒の先に布を巻いて灯油を付けたもの)に火を付ける際は、下向きにして火を付けることが重要です。

二つ目は、溪流遊びに関するものです。まず履くものは、サンダルなどは砂が入りやすく滑りやすいのでNG、良いのはマリンスューズですが学校の「上履き」も良いとのこと。また、危険なのはバンダナを首に巻くことだと言います。それは、万一子どもが溺れた時に、バンダナが目立つので周りにいる人はとっさにそれをつかんで助けようとしてしまうため、逆に窒息させてしまう危険があるからです。

今回の大槻氏の講演は、単に机上のものではなく極めて実践的なもので、大変貴重なお話でした。今後の青指の活動にもぜひ生かして行きたいと考えています。(今井)



## 区制80周年記念 みなみ桜まつり

令和5年3月25日(土)・26日(日)、春の「南区桜まつり」と夏の「南まつり」が統合されて初の「みなみ桜まつり」。4年ぶりの模擬店を出店すべく、実行委員会で打ち合わせを重ね、準備をしてきました。

25日の朝、雨の中熱気に包まれた青指テント。焼きそば班の下準備が整い、焼き鳥班の炭が最高の状態になったとき、非情にも中止のアナウンスが流れてきました。

どよめきも一瞬、焼きそば・焼き鳥とも、下準備を終えたものを焼くことにしました。焼きそばのジュージューと焼ける音、ソースの匂い、パック詰め作業をしていると、短時間でしたが久しぶりにお祭りの気分を味わえました。ベテラン組の慣れた手つきで焼かれた焼き鳥は、抜群の焼き加減・味付けで、改めて販売できない悔しさを噛みしめました。ただ、一通りの作業を経験し、楽しくメンバー同士が交流できて良かったと思います。

来年は満開の桜の下で、ボランティアの子どもたちと一緒に模擬店が行われることを楽しみにしています。(平野・山田・伊東)



## 令和4年度 青少年の健全育成を進める県民大会

令和5年1月21日(土)、川崎市麻生区にある麻生市民会館にて午後1時より開催されました。スローガンは「青少年のために、今できること ～ポストコロナ時代の地域支援～」。

青少年指導員協議会だけでなく、青少年に関わっている色々な団体の県大会であり、県内33市町村、神奈川県、神奈川県教育委員会、神奈川県警察本部など含めた約60団体が集まっておりました。

開会の神奈川県副知事のあいさつに始まり、基調講演「ポストコロナ時代の地域支援」を間に挟み、パネルディスカッション「これからのこどもの居場所づくりと地域の関わり」を元商社マンの川島高之氏、現役高校生のパネリスト2人のやり取りを拝聴しました。川島氏はご自身のPTA会長、会社社長、NPO法人理事という経験と立場から子どもたちと地域の関わりについてディスカッションされておりました。2人の高校生も自らの経験談を踏まえて今後の地域

と大人たちとの関わりについて意見を述べておりました。両者の視点はこれからのポストコロナを見据えた活動を考えることへの刺激になりました。

私は初めての多団体との交流の場でありました。子どもたちを見守っている団体は我々だけではないということを改めて知ることになり、その数に驚きと仲間意識のような頼もしさを感じました。県内にこんなに子どもたちに関わる大人が沢山いることを知ることができて人の温かさ、ぬくもりを感じられた時間となりました。(加藤)



## 令和4年度 横浜市青少年指導員大会

令和5年3月5日(日)関内ホールにて横浜市青少年指導員大会が開催されました。普段お会いする機会が少ない横浜各区の青少年指導員の皆様と年度末の催しを締めくくることができました。

横浜市青少年指導員連絡協議会会長、横浜市長のご挨拶の後に総勢140名の永年勤続者顕彰式が行われました。

式に参加して、子どもたちと気兼ねなく接し、成長を見守る活動が各地区で継続的に行われていること、様々な問題や課題に取り組んでいることを感じることができました。

後半は記念講演として福岡県警本部生活安全部少年課少年健全育成室課長補佐少年サポートセンター警視庁指定広域技能指導官(通称サポレンジャーレッド隊長)安永智美氏から「救えたはずの命から託された願い～未来のあなた



南区顕彰者



15年顕彰(4名) 金沢 光秀、岡本 修司、飯田 政弥、加藤 勝代  
10年顕彰(3名) 阿比留 光稔、宮崎 博、野上 由美子(敬称略)



が見たい。あきらめないで～」というテーマで子どもたちの「心」についてお話をいただきました。痛ましい事件の実例を用いて、被害者にも加害者にもしないための活動を紹介していただきました。悩み、苦しみ、悲しみを信頼できる大人たちに素直に話すことができない多感な成長期において「心」の傷みのメッセージを感じ取り、時にどうケアしていくか考える時間を共有することができました。(岡田)